

おおま

No. 98
岬の光

平成30年8月1日発行

議会だより



防災避難道路の要望 (県対応 青山副知事)

6月 定例 議会 主な 内容

- 平成30年 第2回定例会・第1回臨時会 P 2～3
- 1議員が一般質問 P 4
- 報告(庁舎見学・広報研修会) P 5～6
- 国への要望活動 P 7
- 台湾虎尾鎮 鎮長一行来町 P 8
- 報告(県下議員研修会) P 9
- 県への要望活動・編集後記 P 10

第2回 6月定例会

平成30年第2回定例会を6月7日開会し、6月12日閉会しました。

本会議に提案された報告2件、承認7件、議案7件はすべて原案どおり承認、可決しました。

平成30年度 補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ1083万円追加し、予算総額を51億6271万円とした。

歳入の主なるもの

国庫支出金

○国庫補助金で、国の予算内示に伴う学校施設環境改善交付金6322万円。

繰入金

○基金繰入金で、財政調整基金繰入金の取り崩し2600万円。

諸収入

○原子力発電所対策諸費用で、140万円。

町債

○起債対象事業の精査に伴う過疎対策事業債7980万円を減額。

歳出の主なるもの

商工費

○日々雇用職員賃金151万円。

土木費

○大間港漁船ポンプ用電源設置工事費150万円。
○港湾浚渫事業負担金233万円。

予備費

○財源調整し、40万円を計上。

大間町役場 住所変更

大間町役場の位置を定める条例の一部を次のように改正。

大間104を
奥戸下道20番地4
に改める。

この条例は、平成30年9月25日から施行する。

財産の取得

- 1 契約の目的
大間町役場新庁舎用備品購入
- 2 契約の方法
指名競争入札
- 3 契約の金額
3180万円
- 4 契約の相手
むつ市大湊浜町
14-9
株式会社村井商店
代表取締役
村井利嗣

専決処分 承認7件

第1号

介護保険法の一部改正により、対象条例が平成30年4月1日から施行されることに伴い、新たに条例を制定するもの。

第2号

地方税法等の一部改正において、対象条例が平成30年4月1日に施行されることに伴い、大間町税条例の一部を改正するもの。

第3号

国民健康保険法施行令の一部改正により、対象条例が平成30年4月1日に施行されることに伴い、大間町国民健康保険税条例の一部を改正するもの。

第4号

国民健康保険法施行令の一部改正により、対象条例が平成30年4月1日に施行されることに伴い、大間町国民健康保険条例の一部を改正するもの。
※団体等の名称の改正。

第5号

高齢者医療制度の一部改正により、対象条例が平成30年4月1日から施行されることに伴い、大間町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正するもの。

第6号

漁港施設機能強化事業に係る繰越明許費の設定。

第7号

地方交付税、地方譲与税等の確定及び財源調整の予算処置。

第1回 臨時会

7月4日、開会。
議案3件を原案どおり
可決しました。

水産振興基金の活用

割石上架施設整備

事業の目的

○台車をレール式から
タイヤ式によるもの
に変更する。
○整備できる漁船の数
が増え、整備等終わっ
た順に下架できるよ

○順番待ちが解消でき
ることから、操業日
数を増やすことがで
き、収入の増加を図
ることができると
きない10トン以上の

漁船も上架できる。
○地区外に移動する経
費と割高となる施設
使用料を縮減するこ
とで、漁船整備に係
るコストの削減を図る。
○新たに整備すること
で安全で効率的な作
業環境を確保する。



総事業費

3億4859万円
(うち補助 3億円)

国事業(事業費4/10)

1億2000万円

組合(水産振興基金)

2億2859万円

水産振興 基金借入

借入金額

7億2666万円

内訳

○4億7666万円

(H27年借入のH29

年度末残を返済)

○2億5000万円

(水産業強化支援事

業事業主負担)

水産振興 基金償還計画

平成31年度から平成
47年度まで、年427
5万円を返済していく
こととする。

(記)佐々木

工事請負 契約の締結

1 契約の目的

町道大間内山線道路

改良工事

2 契約の方法

指名競争入札

3 契約の金額

5400万円

4 契約の相手

大間町大字大間字

中山16-3

株式会社浜田産業

代表取締役

澁田 慎也

1 契約の目的

奥戸小学校特別教室

棟増築工事

2 契約の方法

指名競争入札

3 契約の金額

2億9700万円

4 契約の相手

大間町大字奥戸字

向町80-2

野崎建設工業株式会社

代表取締役

野崎 徳子

一般質問



野崎 信行 議員

町長答弁

今後の検討課題としてまいります。

問十七

「再生エネルギー」収益金の一部給付型奨学金について。

町長答弁

再生エネルギー収益金の一部給付型奨学金についてではありますが、現在、寄附の申し出がありません。

問十八

ガンを効くあかもく試験養殖について、ガンを効くあかもくの養殖事業をしたらどうか。

町長答弁

漁協の主体性に応じて対応できればと考えております。

問二十三

「水素活用で地方創生」町づくりへの挑戦について、大間町も取り組むべきである。

町長答弁

十四番でお答えしたとおり、六ヶ所村の動

向を注視してまいりたいと存じます。

問二十六

「掲示板公文書」管理について、大間町は「掲示板公文書」管理ができていない。

町長答弁

新庁舎においても引き続き適切に管理してまいります。

問二十

「むつ市の土地貸出」について、むつ市ではコンビニに月50万円で土地を貸している。大間町はたくさんの土地を所有している。大間町も貸したらどうか。

町長答弁

現在、住民の申請により可能と判断した場合は貸付しているところですが、今後も有効活用を図ってまいります。

問二十一

「眠った資源で地域活性化」について、「サル」「熊」「カモシカ」の眠った資源の活用である。

町長答弁

現在その考えはございません。

問二十三

日本遺産「北前船」野辺地交易・観光について。

町長答弁

野辺地町はじめ各団体と相談していきたいと思えます。

問二十四

「走る広告塔」について。

町長答弁

原動付自転車等については検討してまいりたいと思えます。

問二十五

「漁業権の空いている場所に企業・養殖」誘致について。

町長答弁

漁協の意向が大事となります。

問二十七

電源開発新規事業について、新聞によると電源開発が新規事業で洋上風力に取り組むというが。

町長答弁

事業者の判断するものと理解しています。

問二十九

佐井村の整形外科、歯科病院へ通院のためコミュニティバス運行について、佐井村に整形外科医が来るという。佐井村の病院に通うコミュニティバスを配置したらどうか。

町長答弁

整形外科医につきましては、具体的に聞いておりませんので、ここで答弁はできかねます。

39の質問の中から15を掲載いたしました。

(記)野崎

問二

「集落支援員」制度の活用について、総務省が活性化のため、年間350万を援助しているが。

町長答弁

今後の状況を注視してまいりたいと思えます。

問五

「大川目・太陽光発電」誘致について。

町長答弁

町が誘致する考えはございません。

問十四

「水素活用モデル事業」誘致について、再生可能エネルギー県モデル事業で、六ヶ所村が選出されたが。

町長答弁

今後のモデル地区の動向に注視してまいりたいと存じます。

問十五

「奥戸中学校有効利用」について、ドローン教室所とし、全国から生徒を集め、観光・雇用に活用すべきである。



大間町役場 新庁舎工事視察

平成30年6月12日〔火〕



1階部分の視察

昭和5年6月大奥村役場として、現在地に新築された。その後幾度の増改築をおこなっている。経年経過とともに庁舎の老朽化が進み、維持管理の限界に帰しており、さらには、大規模災害時での防災対策の拠点として利便性が欠けていることか

ら、その役割に不安を抱えている状況。このことで平成28年3月30日の大間町公共施設配置計画策定建設特別委員会、役場新庁舎建設にむけての本格的議論が開始された。

平成28年5月9日から数えて6回の特別委員会が実施され、リース会社が本庁舎を建設し、町はリース契約をし、15年間リース料を払う。業者の決定はプロポーザル方式で行った。

平成28年4月25日、町長はじめ全議員、総務課、事務局員の総勢14名で、宮城県松島町庁舎視察研修を実施してから2年、町民の皆様が待ちに待った大間町役場新庁舎が間もなく完成しようとしています。

平成30年6月12日、6月議会定例会終了後、完成間近な新庁舎を町長、全議員、幹部職員らで視察を行いました。順調に行けば8月中旬には完成するといわれ、9月には引越し作業、式典行事等が予定されており、今まさに仕上げ段階で数十名の作業員が手際よく作業に当たっております。

住所 大間町大字大間字奥戸下道20-4
敷地面積 9,648.81㎡
建物構造 鉄骨造
延床面積 2,797.19㎡
事業費 限度額15億6千万円



に揭示いたしました。新庁舎の内覧会を計画しておりますので詳しいことは町報、広報無線などでお知らせいたします。お楽しみに。

(記)宮野

町民の皆様のための 内覧会

1回目

平成30年
9月14日〔金〕

2回目

平成30年
9月23日〔日〕
午前中のみ

町村議会広報研修会

青森県町村議会議長会



「読まれる議会だよりの編集と表現ポイント」

講師

長岡光弘氏
(グラフィックデザイナー)

平成30年5月24日、青森労働福祉会館において、青森県町村議会議長会主催による町村議会広報研修会が行われました。広報編集委員5名と、議会事務局2名が参加し、研修を受けてきました。

今年のテーマは「町民に読まれる議会だよりの編集と表現ポイント」です。

町民の皆さんに読まれる議会広報作りを目指し、広報委員は日々頑張っております。

町民の皆さんに読まれる広報を作るには、町民の皆さんに議会を理解していただく、町の様子を議会の方に投稿して下されば幸いです。町の些細な事でも良いんです。

議会と町民の皆さんと一緒に良いい広報を作っていきますよ。

これから暑くなります。大間の夏は短いです。これから一大イベントの祭りが来ます。

体調に十分注意され、暑さを乗り切って、楽しい祭りにはしたいものです。

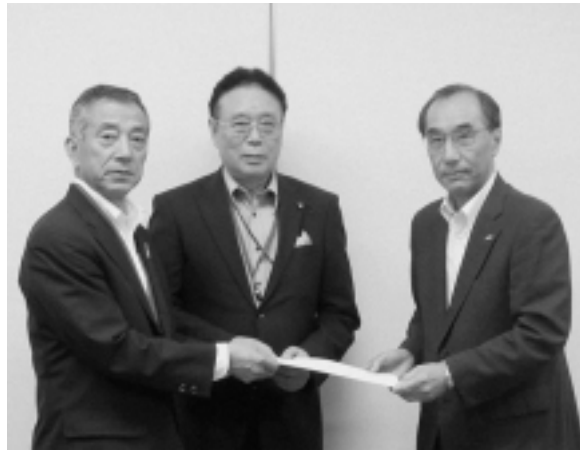
皆さんのご協力をお願いします。

(記)竹内勝雄



要望活動

去る6月18日から20日までの2泊3日の日程で、金澤町長、寺岡企画経営課長、山崎議会事務局長、そして議長はじめ9名の議員団（1名欠席）総勢12名で要望活動を行った。電源開発(株)、各省庁の要人に要望書を手交し、意見交換をした。



電源開発(株)への要望

「原子力発電所運転延期に伴う経済支援について」を強く要望

取締役副社長 浦島彰人氏

- ・共存共栄の趣旨に供い、会社で出来る限りの努力をいたします。
- ・町、議会の皆様方の御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

省庁、自民党では、電力安定供給推進議員連盟、経済産業省、資源エネルギー庁と要望書の手交、意見交換をした。

国への要望

- 1 エネルギー政策、原子力政策の推進
 - 2 東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所に係る対策
 - 3 電源開発(株)大間原子力発電所の早期工事再開
- この3点について責任ある対応を強く要望。



電力安定供給推進議員連盟

細田博之会長
・国が示す原発割合20%に大間も含まれる。

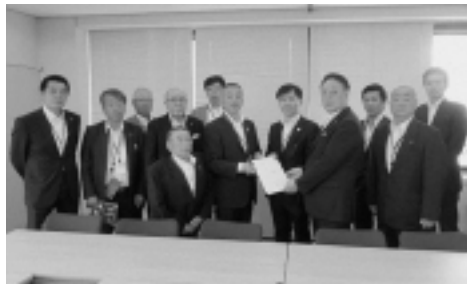
- ・現在40t以上保管されているプルトニウムは再利用し、モックス燃料として大間等で使用しなければいけない。
- ・日本の電気エネルギー政策上、大間原発は必要である。



経済産業省

- 武藤容治 副大臣
- ・原子力発電は我が国に必要なエネルギー源である。

・現在、私は福島原発の現地対策本部長を努めていて、事故の重大さを目の当たりしている。安全対策について、改めて考えて行きたい思いがある。



資源エネルギー庁

5名が立会い、代表で電力、ガス事業部原子力立地、核燃料サイクル事業

- 覚道宗文 課長
- ・核燃料サイクル政策にご協力いただきましてありがとうございます。
 - ・規制庁との連絡を密にし、審査がスムーズに行く事を望む。

・立地地域への交付金等の支援については進める方向である。
・大間原発は核燃料サイクル政策に最も必要な炉である。

衆議院議員

江渡聡徳氏
地元の切なる思いを述べ、意見交換。

江渡先生には、各省庁の要人面会のため、ご尽力を賜りましたことに感謝申し上げます。



規制委員会の審査が長引く中、少しでも前進ある明るい話しも聞くことができました。

今回の要望活動が町にとつて有意義なものであったと思ひ、今後とも活動を続けなくてはいけないと感じました。

(記)千代谷

台湾(虎尾鎮)より 鎮長一行が来町



平成30年6月27日、台湾雲林県虎尾鎮(町)の鎮長 林文彬氏一行17名(通訳も含む)が来町した。

台湾雲林県の北海道視察に同行したものが、虎尾鎮関係者だけがわざわざ大間まで足を運んでくれた。

思い返せば昨年の12月7日から姉妹都市交流の再開拡大を求め、町長を代表として行政・議員一行が虎尾鎮を訪問、大歓迎を受けた事を思い出す。

急な来町に、行政の対応が万全ではなかったような気がするが、海峡保養センターでの意見交換会では、満足顔の一行に安堵した。意見交換会の終盤、町に対して大変なサプライズを用意していたのには驚いた。

新庁舎に飾るための扁額を、町と議会に対してわざわざ持ってきて

てくれたのである。議場に飾る扁額の大きさは横210cm・縦66cmの立派なもので、ここまで運ぶのに苦労したであろう事が容易に感じられたが、残念なことに読めないし、意味が分からない。又もや虎尾鎮に借りが出来た様な気がする。

又、林氏は、冒頭の

挨拶の中で、以前行われていた子供たちの交流の再開をしたいと提案していたが、当町はその提案に同調できるのか心配だ。次の世代の子供たちに、視野を広げる機会を与える事は必要で、一議員としても是非実現してやりたいものだ。

(記)加藤



報告



県下町村議会議員研修会

読売新聞特別編集委員



講師

橋本五郎

平成30年7月12日、青森市リンクモア平安閣市民ホールにおいて、県下町村議会議員研修会が開催された。

この研修会は青森県町村議会議長会が、年一回、中央から講師を招き開催している。

今年の講師はテレビ等でお馴染みの、秋田県出身の橋本五郎氏で、演題は「今後の政局・政治の動きを読む」。内容は現与党の考え方、国会の進め方等の矛盾、秋の自民党総裁選の行方など、テレビネタが主であったが、苦言を呈したのが、地方を本当に考えているのか、国民受け

するために「内閣府特命担当大臣（地方創生・規制改革）」を創設したが、よくわからないと切り捨てた。

後半は政治の話から私的な話に変わり、両親への感謝、故郷への感謝、特に母への感謝には、聞いていて涙が止まらなかった。

私有的本を寄贈（現材数万冊）図書館を設置（運営は部落民）年一回講師を呼び講演会、イベントの開催等部落への恩返しも桁違いの話だ。私自身、明るい場所で見せたのは何年ぶりだろうか？

（記）加藤

視察

平成30年7月13日、竜飛ヒラメ養殖生産組合を視察して来た。

平成元年から青函トンネルから湧き出る海水を有効利用し、ヒラメ養殖に取り組んできたが、現在は、平成25年からウスメバル（竜飛崎金メバル、出荷まで3年）平成28年から

マツカワガレイ（名称は思案中）の養殖に取り組む、こちらは1年で出荷出来るという。

（メバルの生育環境・色付け）のため薄暗い養殖場に、豊富な深層水が無償で供給されるさまは、圧巻と同時に羨ましくもあった。

（記）加藤



青森県への
要望

防災避難道路の 整備促進を

6月15日



町長 議長 青山副知事

主要路線である国道279号線は、東日本大震災発生時、風間浦村が通行止めとなり、有効な迂回路がないため多くの車が立ち往生した。下北半島地域の住民には防災避難道路の確

保が大きな関心事項となっており、再三にわたって要望をしてきたところであるが、いまだに先が見えない状況が続いており、6月15日、町長、議会がそろって県庁を訪れ、早期に

計画をするよう強く要望し、要望書を手渡した。

〔表紙写真と関連〕

青山副知事、福士県土整備部長、下村道路課長、新井田整備部理事が応対し、午前11時から11時35分までの35分間熱心な意見交換が行われた。

岩泉議員

オフサイトセンターのその後の計画は。

宮野議員

国有地内の林道のみを掲示しており前回説明と進歩がない。

金澤町長

全原協の中では防災避難道路の話はするが、いまだに具体的な案がない。

千代谷議員

避難道路は最優先課題、時間をかけずに早め。

岩泉議員

津軽に行けば立派な農免道路ばかり、などの意見がだされ、それらに對してそれぞれ担当から答弁をもらった。

下村道路課長

279号線バイパスは16kmの山岳道路で、一回に整備できないので部分部分でやるように、整備計画を作ってから国に要望する。

福士整備部長

短期農道が避難道として機能するか検討中。

青山副知事

短期、中期、長期を説明し理解を得られていると思うが、スピーディーにやるように知事から指示を受けている。大間町役場、議会と相談しながら責任を持ってやっていく。オフサイトセンターにつ



編集後記

大型マグロを対象に水産庁が示した都道府県ごとの漁獲枠に、漁業者から相次いで不満や批判の声が上がり、全国から650人が集まり6月25日国会議員会館前でデモ抗議を行いました。

大間奥戸両漁協から100人ほど参加し、関係者に対し不満を訴えて来しました。その後、県が示した漁獲枠は、大間漁協(166・8t)奥戸漁協(8・4t)と発表されました。今後マグロ漁業者との話し合いで、まだまだ先が見えてません。

両漁協とも大変な問題であります。

(記)竹内弘

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

佐々木 信彦

委員

竹内 勝雄

千代谷 誠

竹内 昭一

宮野 昭一

(記)宮野